

新規参入者の農業経営の確立と定着に向けた支援

—関係機関との連携による新規参入者支援体制の確立—

1 活動事例の要旨

近年増加している新規参入者の経営確立と定着に向け、農業事務所では「新規参入者研修会」を開催し、「農業経営体育成セミナー」についても内容を充実させました。特に千葉市において関係機関と連携して、新規参入者が地元組織との繋がりを構築し、より就農定着が進む体制の確立を図りました。

2 活動のねらい・目標

千葉地域では、ここ数年新規就農者が増加しており、毎年数名が他産業から新たに農業に参入しています。

農業事務所では、新規参入者の経営が早期に安定し、新たな担い手として経営を確立して地域に定着していくことが地域の農業の維持・発展に繋がると考え、千葉地域新規参入者研修会を開催し、新規参入者の農業経営技術の向上と相互の交流を進めています。併せて新規就農者を対象に実施している農業経営体育成セミナーへの積極的な参加を促し、地域や仲間との繋がりを持つことを進めています。

また、新規参入者の経営確立には、関係機関との連携も重要です。千葉市においては千葉市農業経営改善支援センター実務担当者会議等を通じ、育成のための共通認識を図るとともに、地域の主要な作物の栽培について現地研修を企画し、新規参入者が地域の主要な品目の担い手として経営確立できることを目指しました。

表 1 新規就農者及び新規参入者の推移（千葉農業事務所管内）

	新規就農者（人）	うち新規参入者（人）	割合（％）
平成25年度	28	9	32.1
平成26年度	22	7	31.8
平成27年度	31	3	9.7
平成28年度	30	10	33.3
平成29年度	56	28	50.0

3 普及活動の経過・結果

（1）新規参入者研修会の開催

ア 平成28年度

新規就農して5年目までの青年就農給付金経営開始型受給者及び認定新規就農者39名を対象としました。経営品目のほとんどが露地野菜であり、直売所やインショップ等を利用した販売が多くを占めるため、農産物のPR方法、収量や品質向上に大きな影響を与える土づくり等の講義、さ

らに新規参入者同士の交流を目的に研修会を開催しました（2回開催、延べ参加者24名）。

視察研修会では、多品目を栽培する栽培体系の工夫や露地野菜で問題となる雑草対策としての太陽熱消毒処理法等について学んだところ、経営に取り入れる研修生もありました。



写真1 製品のPR文作成と販売支援
についての講義



写真2 堆肥と緑肥を利用した土づくり
について学ぶ

イ 平成29年度

新規参入者の有利販売事例や量販店における地産地消の取り組み、病害虫防除技術について学ぶとともに、新規就農者同士の交流を進めることを目的に開催しました（2回、延べ参加者31名）。

情報交換会では、就農しての悩みや工夫したことについて話し合うとともに、お互いの悩みについてアドバイスをし、新規参入者ならではの悩みを共有することができ、今後の営農意欲が高まりました。

（2）農業経営体育成セミナーによる新規参入者への研修

ア 新規参入者にも魅力ある研修内容の工夫

新規参入者に対し農業経営体育成セミナーへの受講を促しました。研修では新規就農者への支援制度の説明などに加えて、平成28年度は農業機械のメンテナンスと修理についての研修を実施しました。技術者による研修は、現場ですぐに役立つ技能を必要としている新規参入者にとり有益なものとなりました。

また視察研修会では、山武市の有機農業を実践する新規参入者を視察し、就農の経緯や有機栽培を行うにあたっての苦勞と継続するポイント、土づくりの工夫や、参考にしているネットサイトの情報など様々なアドバイスをもらいました。

イ セミナー研修生との交流推進

平成29年度からは、基本・専門・総合コースの研修の同日開催を増やし、各研修終了後、セミナー生同士の交流する場を設けました。そこで営農状況などを相談する時間を設けたことで、研修生同士でアドバイスし合うなど、課題解決の場となり、さらにお互いを深く知ることで仲間意識が強くなりました。



写真 3 民間企業の技術者による
農業機械メンテナンス研修



写真 4 近況報告とアドバイスを
しあう研修生

表 2 農業経営体育成セミナー生の内訳及び研修回数

	農業経営体育成セミナー研修生（基本・専門・総合）	研修回数（基本・専門・総合・共通）
平成28年度	19名（うち新規参入者 5名）	22回
平成29年度	29名（うち新規参入者 9名）	23回

（3）関係機関との連携（千葉市・JA千葉みらい）

千葉市では、新規参入希望者を対象とした千葉市新規就農希望者研修（年間募集人員5名以内）を実施しています。農業事務所では、千葉市の新規参入希望者に対し、平成28年度から関係機関との連携のもと、秋冬に「にんじんを学ぶ講座」を設定し、JA生産組織について、その構成や活動状況について講義をするとともに、にんじん生産者宅等を視察しています（受講実績 平成28年度4名、平成29年度4名）。

また、これら千葉市における新規参入希望者のそれぞれの状況に応じ、関係機関と連携して、就農相談（就農計画などの作成時のアドバイス、認定新規就農者申請指導）、就農状況報告会や農業次世代人材投資資金交付者に対する営農指導を実施しています。また、新規参入者研修会や農業事務所主催の農業経営体育成セミナーへの参加についても促しています。

（4）新規参入者の増加（千葉農業事務所管内）

平成29年度は、農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）制度や千葉市における研修制度の定着に伴い、ここ5か年の中で最多の28名が新規参入しています（表1）。

（5）農業経営体育成セミナーへの新規参入者の増加

新規参入者にも魅力のある研修を実施したことにより、平成29年度は、前年度よりも多くの新規参入者の参加があり、農業経営体育成セミナー全体の参加者数も増加しました（表2）。

（6）新規参入者の定着事例

平成29年度には千葉市新規就農希望者研修修了した新規参入者1名が、JA千葉みらい千葉東部地区出荷組合連合会人参部会へ新規加入し、栽培講習会等の部会行事へも積極的に参加しています。また平成30年度も同様に2名が部会加入することにより、部会の活性化に結びつくことが期待

できます。

(4) 新規参入者の定着へ向けた関係機関の連携強化

近年の新規参入者の増加や上記新規参入事例から、あらためて新規参入者の就農及び定着について、課題を共有化し、効果的な就農支援体制を確立することが必要であると考えられました。このため、千葉市における農業経営改善支援センター実務担当者会議にて今後の支援について提案したところ、地域に根差した新規参入者の受け入れ態勢の整備について検討を進めていくことで理解を得ることができました。

4 今後の課題

- (1) 関係機関との連携による新規参入者の地域にあった受け入れ態勢の確立
- (2) 関係機関の合意に基づく、地域の組織や地域に根差した就農メニューの作成

5 担当者 千葉・習志野グループ、市原グループ、八千代グループ

6 協力機関

千葉市、JA千葉みらい、千葉東部地区出荷組合連合会人参部会